

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：公衆衛生費 目：生活衛生指導費

事業名 食肉衛生検査機器（LC-MSMS）リース経費

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

健康福祉部生活衛生課乳肉・動物指導係 電話番号：058-272-1111（内 2584）

E-mail： c11222@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,003 千円（前年度予算額：8,003 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,003	0	0	0	0	0	0	0	8,003
要求額	8,003	0	0	0	0	0	0	0	8,003
決定額									

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

平成29年度に導入した高速液体クロマトグラフ質量分析装置（以下、LC/MS/MS という）を使用し、食肉の動物用医薬品の検査項目数及び検体数の拡充等を図る。

（2）事業内容

LS-MSMS リース代（7年リース） 8,003 千円/年
 総事業費 8,003 千円×7年＝56,021 千円

（3）県負担・補助率の考え方

県 10/10（検査機器のリース経費であるため）

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
賃借料	8,003	食肉衛生検査機器（LC-MSMS）リース経費
合計	8,003	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 他県の状況

全国 107 検査機関のうち、13 機関が LC-MSMS を導入しています。

(2) 食肉中のモニタリング検査の状況

県内と畜場又は食肉処理場で処理された食肉及び県内を流通する輸入食肉中の抗生物質、合成抗菌剤等の残留についてモニタリング検査を実施しています。

令和元年度実績	検体数	延べ検体数	延べ検査項目数
牛肉	75	135	2,065
豚肉	49	93	1,511
鶏肉	75	140	2,230
輸入牛肉	20	20	280
輸入豚肉	15	15	210
輸入鶏肉	10	10	140
合計	244	413	6,436

(3) LC-MSMS の特徴

残留物質、残留量の確定が正確に出来ることから、判定時間の短縮、再検査の防止、検査結果の信頼性の向上を図ることができます。

1 検体当りの検査時間が短縮されることや妨害物質が多い食肉から標的とする物資を検出する能力が高いこと、1 度に多項目の検査が可能になることから、検査数の拡充が図られます。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県民の食に対する安心感の向上を図るとともに科学的な根拠に基づいた食品関係業者への監視指導を行うため、高速液体クロマトグラフ質量分析装置（以下、LC/MS/MS という）を使用し、食肉の動物用医薬品の検査項目数及び検体数の拡充等を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値	目標	達成率
食肉中の残留モニタリング検査	—	—	6,436 項目 (R1)	6,500 項目 (R3)	99.0%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

令和元年度実績	検体数	延べ検体数	延べ検査項目数
牛肉	75	135	2,065
豚肉	49	93	1,511
鶏肉	75	140	2,230
輸入牛肉	20	20	280
輸入豚肉	15	15	210
輸入鶏肉	10	10	140
合計	244	413	6,436

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

県内産及び輸入の牛肉等 244 検体について、残留動物用医薬品検査を実施しましたが、基準を超過する検体はありませんでした。

今後も安全な食肉の流通の確保のため、引き続き検査を実施してまいります

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	岐阜県食品安全行動基本計画（令和元年～令和5年）において、動物用医薬品対策として県内のと畜場や食鳥処理場で処理された食肉や、県内に流通する畜産物（輸入品を含む）について、残留動物用医薬品の検査を行い、基準に違反する食品の排除を行うとともに、違反原因を明らかにして検査結果を公表することとしており、食肉衛生検査所での継続したモニタリング検査が必要です。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	LC-MSMSの導入により一度に検査する項目数が増加し、より効果的に基準に違反する食品の排除が可能となっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	LC-MSMSの導入により一度に検査する項目数が増加し、より効率的な検査が可能となっている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 動物用医薬品等の種類は非常に多いため、使用実態に沿った検査項目で検査を行う必要があります。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 厚生労働省の通知に基づいて食肉中の残留モニタリング検査を実施しており、今後も継続して実施する必要がある。検査項目を精査し、更なる食肉の安全性の確保と、飛騨牛などの岐阜県ブランドの推進に寄与していきます。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	

